

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「広い心を培う日韓協働」

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」(フィリピの信徒への手紙4章4-7節)

最近の喜ばしいニュースをひとつご紹介します。1984年に正式交流を始めた日韓聖公会は今年、宣教協働30周年の記念大会を韓国の済州島で開催し、合同の主教会も行いました。各教区の代表や管区の諸委員、女性・青年を含めた約80名が3泊4日をともに過ごし、これからの両国の宣教協働について分かち合い、思いを新たにする機会が与えられました。

私自身のことを思い返せば、神学生の頃に参加した日韓青年キャンプに始まり、日韓協働委員会や青年委員会での日韓青年セミナーへの関わり、宣教主事として年月を重ねる毎に韓国との関わりが深くなり、忙しさと同時に管区での働きの責任が大きくなり、とうとう今年の6月からは管区事務所総主事という重責に任ぜられてしまいました。このことに関しては、素直に喜べない自分、至らない部分の多さを自覚していますが。それはさておき、この間、テレビ局ではどの局もこぞって韓流ドラマを放映し、韓流アイドルの歌とダンスに熱狂し、一大韓流ブームが巻き起こってきました。

しかし最近、両国の政治指導者の交代や日本社会の疲弊感と共に、近隣のアジア諸国との関係を意図的にと思えるほど悪化させ、「ヘイトスピーチ」という人種差別行動まで起こさせてしまい、喜ばしくない現状に陥っています。

一方で民間レベルや個人レベルでの関係は深化していることも事実です。ことに日韓の聖公会は30年間以上に渡る関係の中で、たくさんの宣教協働が各教区の教会で働いてくださって

□会議・プログラム等予定

(10月25日以降および
前回報告以降追加分)

10月

- 28日(火)～30日(木) 日本聖公会人権セミナー〔横浜〕
- 30日(木) 日本聖公会資料保管に関する協議会(東日本)〔聖公会神学院〕
- 31日(金) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会〔管区事務所〕

11月

- 3日(月) 青年員会〔管区事務所〕
- 12日(水) 財政主査会〔管区事務所〕
- 13日(木) 祈祷書改正準備委員会事務局会議〔管区事務所〕
- 14日(金) 収益事業委員会〔管区事務所〕
- 14日(金) 正義と平和委員会〔管区事務所〕
- 17日(月)～18日(火) 原発問題プロジェクト/研究広報チーム〔福島〕
- 19日(水) 原発問題プロジェクト/運営委員会〔郡山〕
- 20日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 24日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト〔中部教区センター〕
- 25日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト〔沖縄〕
- 26日(水) 常議員会〔管区事務所〕
- 27日(木) 礼拝委員会〔管区事務所〕
- 27日(木) 祈祷書改正準備委員会〔管区事務所〕
- 29日(土) ジェンダープロジェクト〔大阪聖パウロ教会〕

<関係諸団体等会議・他>

- 10月29日(水)～31日(金) 日本キリスト教連合会 法人事務・会計実務研修会〔富士箱根ランド〕
- 11月12日(水)～13日(木) UNCSW/ACC 代表団の集い
- 26日(水) NCC 常議員会
- 30日(日) エキュメニズム教令50周年記念3教派合同礼拝

いますし、韓国で神学を学んだ青年が聖職の道を志して歩み始め、互いの主教按手式には参列し合っています。小さな事かも知れませんが、今回の記念大会も「日韓」とはせず、あえて「韓日」聖公会宣教協働30周年記念大会と表記しています。

また、日韓聖公会から世界へ平和のメッセージを発信していこうと、昨春には第2回目の世界聖公会平和協議会が沖縄で開催されました。先日の滝乃川学園で行われた社会福祉連盟会にも、韓国の社会宣教担当の方々が参加してくださいました。過去の反省に基づきながら、日本と

韓国の聖公会が更なる深化発展の為にこれからも手を繋ぎ、ともに歩んでいくことには、愛とゆるしの象徴として世の人々へ示して行く、教会の大切な使命だと私は思います。

冒頭の聖句にあるように、具体的な出会いと協働が私たちの心を広くし、感謝と祈りをともにすることによって平和をつくり出す者として召し出されます。あらゆる「いのち」に誠実に心を開こうという姿勢こそが教会の宣教の中心であることを改めて思い起こしています。

□各教区

北海道

- ・第73(定期)教区会 2014年11月23日(日)17時半～24日(月・祝)16時 日本聖公会北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会)

北関東

- ・聖職按手式 11月3日(月・休)11時 日本聖公会北関東教区「小山祈りの家」礼拝堂 説教:司祭 興石 勇 執事按手:志願者 聖職候補生 ルカ 平岡康弘
- ・第81(定期)教区会 2014年11月24日(月・祝)10時半～17時 志木聖母教会

東京

- ・第123(定期)教区会 2014年11月24日(月・祝)9時～17時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホール

京都

- ・第109(定期)教区会 2014年11月24日(月・祝)9時～17時 京都教区 主教座聖堂・京都教区 教区センター会議室

神戸

- ・第82(定期)教区会 2014年11月24日

(月・祝)8時～17時 神戸聖ミカエル大聖堂(神戸教区主教座聖堂)

九州

- ・第109(定期)教区会 2014年11月23日(日)17時～24日(月・祝)15時 日本聖公会九州教区主教座聖堂および教区センター

沖縄

- ・第60(定期)教区会 2014年11月23日(日)18時～24日(月)15時 日本聖公会沖縄教区センター

□神学院

聖公会神学院

- ・諸聖徒日および聖公会神学院創立感謝記念礼拝 11月1日(土)14時 聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 司式:校長 司祭 佐々木道人 説教:特任教員 司祭 中村邦介

ウイリアムス神学館

- ・ウイリアムス神学館関係逝去者記念聖餐式 11月29日(土)13時 聖アグネス教会(京都教区主教座聖堂) 説教:谷昌二主教(沖縄教区・退)

† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。



司祭 マルコ福澤道夫 (東京教区・退職)

2014年10月21日(火) 逝去 (86歳)

《人事》

横浜

執事 トマス吉田仁志 2014年9月23日付 柏聖アンデレ教会牧師補に任命する。

神戸

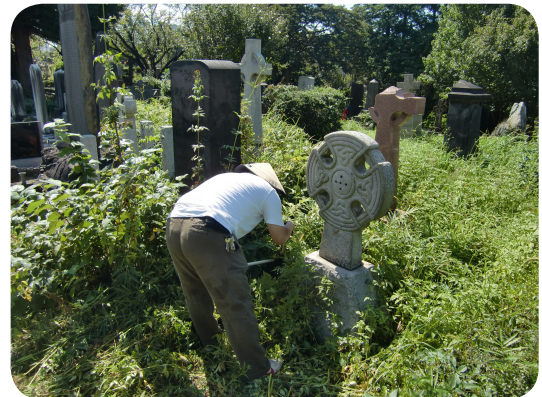
パウロ 歳實 勲 (としぎね・いさお) 2014年10月1日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

宣教師逝去者記念・青山墓地の清掃 (2014・10・3)

大型の台風の影響が懸念されるなか、当日はそんな心配をよそに、この時期にしては日差しが強く、とても暑い一日でした。

宣教師逝去者記念・青山墓地清掃は、相澤牧人前総主事の発案で始まった管区事務所の恒例行事で、職員一同この日ばかりはアウトドアの出で立ちで地下鉄銀座線・外苑前駅に集合し、徒歩で青山墓地に向かいます。その昔、宣教師として来日なされた外国の方々が永眠なさる墓石に到着すると、その周りを覆う、うっそうとした草を刈る作業の始まりです。今年は、近くにある代々木公園で Deng 熱が発生したため、例年以上念入りに虫除けスプレーを全身に振りかけて、各自お気に入りの工具を手に伐採開始。

例年、6月に行われる行事として定着していましたが、今年の日本聖公会第61(定期)総会で、管区事務所の総主事に矢萩新一司祭が就任なさったことを受け、6月に行うことが時期的に難しかったので、今回は延期という形で10月に行うことになりました。



現代の日本とは違い、携帯もインターネットも存在しない時代に、日本語でのコミュニケーションを図ることすら容易ではなかったであろうと思われる宣教師の方々は、この地でどのような思いを巡らせながら宣教活動を行われたのでしょうか？

異文化圏の日本人に、もっとキリスト教を理解してもらいたい、そのためにはどうすればいいの

だろう…と日々試行錯誤なさっていた宣教師の方々の活動に終わりは見えなかったのではないだろうか、など思いを馳せながら、黙々と作業を続けました。強い日差しが降り注ぐ中で作業は思いのほかハードでしたが、草刈りの区切りをつけることができました。墓石もみがき、お花を供え、一同墓石を囲んで宣教師逝去者記念式を行いました。このように管区事務所の職員が宣教師の方々のお墓を訪れることは、当時、宣教師の方々が伝えたかったことは今でもしっかり受け継がれている、という証であると考えます。

炎天下、墓石周りの草刈りをしながら「終わり



が見えない…」と感じたことは、かの時代、宣教師の方々が日本での活動に感じたことと似ているのではないかしら?と、ちょっぴり宣教師の方々の気持ちを理解できたかのように自己満足したのは私だけでしたが、総主事はじめ職員一同、今年もこの行事を無事に行なえたことへの感謝の気持ちを分かち合い、来年もこの宣教師の方々の墓石に再び訪れることを約束し、それぞれの思いを胸に、青山墓地を後にいたしました。

(管区事務所職員 鈴木さおり)

再録 ☆東北教区時報「あけぼの」(2014・10)

「忘れるということ」

日韓聖公会青年セミナー 2014
に参加して

聖職候補生 パウロ 渡部 拓

8月11日～15日、仙台、新地を会場に行われた「日韓青年セミナー」に参加させていただきました。まずはこのことを実現させてくれた、教区、教会、そして信徒の皆様へ感謝致します。

セミナーは、基本的には講演を聞いたり、被災地を巡礼した後に、それぞれのグループでシェアリングをするという形で進みました。もちろんどのプログラムにおいても、それぞれ多くのものが得られましたし、韓国の青年との対話によって色々な発見がありました。そんな中で、最も印象に残った言葉が「忘れてしまっていて、ごめんなさい」という韓国の青年の言葉でした。この言葉は被災地巡礼から帰ってきたときのシェアリングにおいて彼の口から出てきたものです。彼は被災地そのものについても、もちろんショックを受けていたのだと思います。しかしそれ以上に、自分自身が隣の国である韓国に住んでいな

がら、震災の事実を忘れてしまっていた、過去のことにしてしまっていたということに気が付いて、ショックを受けたようでした。私は彼のこの言葉を聞いて、「ああこの人は、震災や原発について、本当に当事者のように感じられているのだな」と思いました。そしてそう思うと同時に、私自身が、例えば海外で起こっていること、韓国のセウォル号事故や、その他の災害などについて、どこか過去のことにしてしまっているのではないかと反省させられました。そしてこの「忘れてしまう」というキーワードは、このセミナーで提起された、震災復興とそして日韓にまたがる原発の問題にリンクしているのだと思いました。

問題が起こっているその場所から離れてしまうと、私たちが頼りにできる情報というものはテレビや新聞といった、限られたものになってしまうということです。今回のセミナーにおいては、韓国で起こっている「脱核運動」というものについても勉強できたのですが、そこでは韓国における原発村への差別構造が語られていました。そしてそこで行われている、差別の事実やそれに対する抗議というものは、その原発の恩恵が一番に受けるだろう中央の人たちにはほとんど伝えられていないということ。つまり、多くの人々は計画を推し進める政府の都合のいい情報しか知らされないわけです。このことは、当事者以外の人々は、抗議活動などが起こったその時くらいは、その情報を得ていたかもしれませんが、それ以後は上に都合のいい情報しか得られず、あるいは情報が無くなり、やがて忘れていくということを意味しています。

この韓国の脱核運動による問題は、日本の震災や原発の問題においても同様に起こっていることではないでしょうか。同じ東北に居てさえ、南三陸や釜石などの情報は正しく伝わってこないような気がします。さらに言えば、原発や放射能の問題などは、自分で積極的に情報を集めなければ、今現在の状況はほとんど得られないというのが現実であると思います。そして、知る機会が無くなると、人間は近くに居てさえ、そのことを忘れてしまうのではないでしょう

か。私は今回の日韓セミナーで、隣の国の青年の「自分は忘れてしまっていた、そのことを謝りたい」という、謙虚で素直な心に触れて、私自身も自分を思い返して、今一度原発や震災に対して向き合わなければならないと感じさせられました。

また、私はこのセミナーまで韓国という国についてもよくわからないでいました。しかし実際に同年代の韓国の青年たちと触れ合うことで、表面だけでは分からない違いに気づき、また、やはり彼らも私たちと同じキリスト者なのだということ強く感じる事が出来ました。この経験は私のこれからの教会での働きにもきっと生きてくるだろうし、生かさなければならぬと思っています。

最終日の聖餐式の説教において、加藤主教様は「このセミナーでの日韓の青年の出会いが、ただ仲良くなるだけでは終わらずに、お互い課題を持ちながら議論できるようになってほしい」と仰っていました。本当にその通りだと思いました。今回、私は韓国の青年たちと友情を育むことが出来たと思っています。しかしこの出会いと友情が神様により喜ばれるものになるには、これからの関係がより重要です。それは世界で起こっている問題に対して、お互いに傷つくことがあったとしても、しっかりと話し合える関係になるということです。これは簡単なことではないかもしれませんが、私はきっと実現できると、今回の出会いで確信しています。

今回の出会いと経験を与えてくれた神様に感謝いたします。

Alleluia

再録 ☆沖縄教区時報(2014年9月)

「地上と天上のつながりの中で」

—GFS世界会議—

執事 グロリア 西平妙子

GFSの世界会議が、7月25日～8月5日イギリスのウェールズで行われました。私も参加させていただきました。詳しい内容については、報告があると思います。会議はほとんど缶詰状態で行われました。でも、夜は各国のGFSメンバーと交流の時を持ち、楽しくすごしていました。その中で、不意に「ここで楽しんでいていいのだろうか。」という思いが頭をよぎりました。

それは、出発前、「イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザへの軍事作戦で、7月23日までのガザの死者が695人に達した。戦闘が始まった8日から23日までの死者数は695人、負傷者は4100人、民家500軒、モスク16カ所が破壊された。」というニュースを聞きながら日本を出発したからです。一人一人の大切な命が、大切な人生が死者数という数字の中に閉じ込められ、一つの数字になって私たちの前を通り過ぎていきます。ニュースにならない出来事は、今週もザビールの祈り(エルサレム教区の司祭が中心になって設立されたザビール・エキュメニカル解放神学センターで毎週木曜日の昼の祈りで捧げられる嘆願が、世界中で共に捧げてほしいという願いから毎週配信されています。それを、横浜教区の司祭様が日本語に訳してくださっています。)としてメールで届きます。

命は大切だと言いながら、命を大切にできない。自分の都合の悪いもの、邪魔者はどこかへ行ってもらいたい。それは、どこか他の国の出来事

ではなく、私の心の中にあるということを忘れてはいけないと思います。

私は正しい側にいるのではなく、それは自分の姿であるということを思い知らされます。その罪にからめとられそうになります。しかし、不意に頭をよぎったその思いは、目の前の出来事のかげがえのなさを教えてくれました。

17の地域と国のGFSの仲間が共に、毎日聖餐式を行い、祈り、話し合いをしました。それぞれの国の文化を紹介し、共に歌い踊り、楽しむ姿を見て、これが私達の生きる道だと思いました。ワールドプロジェクトで、必要なところに支援をしていく。聖公会の仲間、クリスチャン、GFSのメンバーだというだけで、今日初めて会ったにもかかわらず、信頼してお互いの意見を安心して言うことができる。意見は違っても、それを抑え込むようなことは決してありません。他者を尊重し、大切にしようとする姿がありました。

ジュニアのメンバーが、お互いにもっと緊密な関係をつくるために、何ができるかを話し合っていました。シニアのメンバーは、次世代を育てるために参加していました。参加者が、今の時を共有し、お互いを大切に、関心を持って接していました。ガラテヤ書の霊の結ぶ実が目前にありました。「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。」(5:22)

神様を見つめながら、人と出会う時、十字架のイエス様が真ん中におられ、聖霊の働きが実を結んでいることを見せていただいた気がしました。「あなたが、地上でつなぐことは天上でもつながれ、地上で解くことは天上でも解かれる。」(マタイ16:19) 地上と天上は分かれているのではなく、一つに繋がっているということを思いながら、日々の生活の中で平和を祈り、作りだしたいと思いました。(屋我地聖ルカ教会牧師補)



「管区事務所だより」 次号記事予定

特集1回・日韓聖公会宣教協働30周年記念大会

(韓国/濟州島・10月20～23)

特集2回・日本聖公会人権セミナーの報告

(10月28日～30日/横浜教区)

Alleluia

 出版物案内

- ・『2015年度 教会暦・日課表』
2014年10月15日付発行 価300円(税込)
- ・『原発問題についてのQ&A』 改訂1刷
2014年11月1日付発行 価100円(税込)

日本聖公会／カトリック教会／日本福音ルーテル教会

合同礼拝

エキュメニズム教令50周年

テーマ 『いつくしみと愛のあるところ』

2014年11月30日(日) 待降節/降臨節第一主日 午後3時より

15:00-16:00 シンポジウム (パネラー:光延一郎、西原廉太、石居基夫、司会:江藤直純)

17:00-18:00 合同礼拝 (共同司式者:岡田武夫、大畑喜道、大柴譲治、説教者:徳善義和)

■東京カテドラル関口教会 聖マリア大聖堂にて

[バス] JR山手線目白駅5番乗り場より都営バス 新宿駅西口行き「椿山荘」下車すぐ

[地下鉄] 東京メトロ有楽町線「江戸川橋駅」下車1a、1b出口より徒歩15分

エキュメニズム教令50周年
カトリック教会/日本聖公会/日本福音ルーテル教会

合同礼拝

Ubi Caritas et Amor

テーマ 「いつくしみと愛のあるところ」

15:00-16:30 シンポジウム (パネラー:光延一郎、西原廉太、石居基夫、司会:江藤直純)
17:00-18:30 合同礼拝 (共同司式者:岡田武夫、大畑喜道、大柴譲治、説教者:徳善義和)

2014年11月30日(日)
待降節/降臨節第一主日 午後3時より

東京カテドラル関口教会
聖マリア大聖堂

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。